

「こんにちは！知事です（今治地方局）」

日 時 平成17年7月28日（金）10:30～12:30

場 所 せとうち交流館（上島町）

今回は、上島町の方々からご意見をお伺いしました。

知事との意見交換にご参加いただいた方々

	氏 名		氏 名
1	東 修二	11	檜垣 幸子
2	池本 順一	12	福井 千恵子
3	北浜 風貴子	13	福田 智子
4	新川 澄子	14	三上 幸美
5	砂川 光洋	15	宮本 幸生
6	竹川 修	16	村上 哲朗
7	田房 友典	17	村上 優美子
8	出口 ．	18	森本 雅文
9	中浦 一美	19	和田 愛
10	中林 宏徳		

傍聴された方 83名

意見交換の概要

上島架橋の計画

合併して仕事で島間を行き来する機会が増えた。上島架橋について佐島と生名島との架橋は5年後に完成ということであるが、生名島と岩城島との架橋はどうか。

(知事)

上島架橋の生名橋と岩城橋の建築費の試算は200億円を超えており、国がなかなか認めてくれなかった。国に認めてもらうために強調したのは、町村合併した以上は橋がないと意味がないということと橋の高さを下げ、幅も2車線ではなく1.5車線とすることで大幅なコストダウンを図るということで、2割減の160億円で国の理解を得た。

生名橋の工事が終わる前に、岩城橋の設計、用地買収を行い、生名橋の完成に併せて、岩城橋に着工するスケジュールで進めようとしている。生名橋と岩城橋はセットという考えで進めている。

生名立石港の整備

上島架橋は必須条件であり、生名橋、岩城橋については感謝している。更に上島町が発展していくためには、本州・四国との接続が必要である。岩城島から生口島に架けるにしても、生名島から因島に架けるにしても大変な事業である。当面の玄関口は生名島の立石港になると思うので、まずは立石港を整備充実してほしい。立石港の棧橋は奥行がないので、島内にバスの乗り入れができない。

(知事)

県は本土との架橋の態度を決めていない。選択肢としては岩城島から生口島の案と生名島から因島の案とがある。一長一短があり、生名島の場合は因島の市街地があるので、相当高い橋が必要である。上弓削から家老渡の案も考えられるが、基本的には、将来上島町が愛媛県に残って今治市との合併を念頭に置くのであれば、岩城島から生口島の案が有力であろうし、因島を含めた大尾道市のエリアに入りたいとのことであれば、生名島から因島の案になるだろう。将来の大合併に考えた時に、大今治市のエリアに入るのか、大尾道市のエリアに入るのか、住民の選択をベースとして、橋をどちらに架けるかが考えられることになるにかと予想している。いずれにしても、広島県と愛媛県が共同で進めなければならないことで、広島県側にはメリットはないので、愛媛県の財政負担が多くなる。どちらに架けるかは固定しないで、様子を見ている状況である。

立石港の整備の問題は、自民党生名支部からも要望を聞いている。状況

等を踏まえて、県としても真剣に検討する。すぐやるともやらないとも答え難いが、上島地域の振興の点で、ウェートとしては高く受け止めたい。

異常潮位に対応した護岸工事の実施

生名地区には海拔ゼロメートル地帯が多い。満潮と台風、大雨の時に浸水が多々起こるが、ポンプ場が1箇所しかなく、自然に潮が引くのを待っている状況である。温暖化の影響もあり、異常潮位が年に何度か起きているので、県が実施する護岸工事は異常潮位を踏まえて見直しを行ってほしい。

(知事)

災害予防は必要であるが費用の問題がある。経済効果の面で集落密集地を優先する。国家財政が逼迫し公共事業が削減する傾向の中で、地域の実情を分析し、地方局単位で公正に判断しながら実施している。

造船所拡張のための海岸の埋め立て

岩城は造船と農業で生計を立てている。造船所の拡張のための海岸の埋め立てに尽力してほしい。

(知事)

自民党岩城支部から造船業のための状況整備の要望を聞いている。埋め立ては環境問題との絡みがあって、瀬戸内海の自然にとっては好ましいものではない。ただ、地域が造船主体で生きていることになると、産業の活性化なくして島の未来がないということになり、どこかに調和点を設ける必要がある。具体的な計画が出た時に、自然環境との調和、折り合いの中で、議論していくことになる。

教育熱心な教員の離島への配置

子供たちが年々減少し複式学級になっており、中学校も合併の方向に向かっている。学校の先生も3年ぐらいで異動になり地域に馴染んでいない。教育に力を入れていけば、若い人も住みやすくなるのではないかと思う。生名、弓削からも他の地域の高校に行かせている。小さい学校でも力を入れて魅力のある小学校、中学校、高校にしていけば、若い人とか産業にも力が入るのではないか。

(知事)

人口過疎地帯、僻地、離島は全て同じ悩みを抱えていると思う。全国知事会が義務教育費国庫負担制度を廃止して、県・市町村に任せろという声が出ている。気になっているのは、人事権を県ではなく、市町村に

任せろという声が都市部から出ていることである。市町村単位の人事権になったとき、上島町が教員採用を募集して来てくれる人がいるのか。採用しても上島町で教員を続けられるのか。県の人事権を維持しないと、地域のアンバランスが出るのではないかと私は主張し続けている。

教員の配置は、県教育委員会が教育熱心な人材を送り込むのに尽きる。当然配慮しているはずだと思う。現実がそうでないなら、認識を改めてもらう必要がある。子供にとって出会う先生次第で人生が大きく変わると思う。典型的な例として、「二十四の瞳」の大石先生のような教員がいれば、子供たちは幸せだろうと思う。

魚島の人口減少歯止め策

魚島では人口が毎年10人前後減少している。人口減少のスピードにブレーキをかけるいい方法はないか。

(知事)

人口の問題は、その地域に住んで全国平均の生活水準として生きていく収入が得られるかどうかにかかっている。魚島は漁業が中心であるから、漁業で生業が成り立つように努力するしかない。これまで地方交付税や国庫補助金が僻地や離島に送られていたが、これからは厳しくなる。都市部と同じような生活レベルは求めないが、心豊かに生きる地域として残るかどうか。地域の選択の問題である。県としてできることは、魚島が漁業で成り立つための最大限の支援をすることしかないと思う。

老朽化した特別養護老人ホームの新築

特別養護老人ホーム海光園は、築後30年を経過し、老朽化が進んでいる。入居定員を増員する形での新築をお願いしたい。

(知事)

上島町長からも直接、話を聞いている。県としても可能な限りの協力支援態勢を組みたい。

廃校後の伯方高校岩城分校校舎の活用

伯方高校岩城分校は今年度から生徒募集を止めており3年後に廃校になる。建物は県のものであるが、廃校になった後の利用はどうか。

(知事)

申し訳ないが、岩城分校は1学年の5名が確保できないので廃止を決定した。廃校後の建物は、用途の予定はない。県内全体で町村合併が進

み、空いた施設の活用方策をそれぞれ検討している。財政状況が厳しくなったので、新しく作るよりは既存の施設を可能な限り転用したい。県では、新居浜保健所を廃止したので、今治養護学校新居浜分校に転用する。岩城分校は転用の予定がないので、地域からの要望があれば相談に乗る。

県内民放の難視聴エリアの改善

愛媛の民放が受信できない地区がある。広島、岡山、香川のローカルを見ている。愛媛の民放が見られるようにしてほしい。

(知事)

瀬戸内海は中国と四国の電波が入り交じった難しい地域である。愛媛の放送の受信エリアにするのは、膨大な経費が必要になり難しいが、CATVが普及すれば可能である。

携帯電話不通エリアの解消

弓削商船高等専門学校学生寮付近は携帯電話が繋がらない。学生が困っているので、検討してほしい。

知事が進めている「愛と心のネットワークづくり」に共感している。ボランティアへの参加は、小学校・中学校・高校での心の育成に大きく関係する。物の大切さ、人とのコミュニケーションの欠如した学生が多い。心を育成する教育の場、きっかけが必要であるので、サマーボランティアキャンペーンなどをどんどん進めてほしい。

(知事)

携帯電話は民間業者がすることである。県は、補助ができる地域に鉄塔を立てて中継基地を造る補助金を出している。かつての70市町村役場から4キロメートル以内の不通地帯を解消し、人口の集落の大きさに応じて順次実施している。その地域がどの程度の加入者増が見込めるのか、エリアを分析して判断することとしている。

地域の実情にあった農業支援

農業にたくさん支援してくれているが、決められた条件に合わないのので支援してもらえないケースもあるので、地域の実情にあった農業支援をしてほしい。

(知事)

国の中山間地域等直接支払制度の基準が変わり、大規模集約合理化の方向に進んでいる。条件が厳しくなっていると理解している。棚田、

段畑、零細農家の多い本県の実情を認めてほしいと農林水産省に要望している。中山間地域等直接支払制度の対象から外れる分野が増えてくることを心配している。地方局が具体的な状況を把握して対応を考える。

離島間航路の運行時刻の改善

郵便配達で弓削・生名航路を毎日利用している。運航の時間帯に不便を感じるのを考慮してほしい。

(知事)

離島航路への国の補助基準が厳しくなって、国が補助しているのは魚島・因島間だけで、残りは県が補助している。地域の希望は理解できるが、大赤字が見込まれると船会社もなかなか応じにくいと思う。県・町の補助は利用客数によるので、郵便事業のためだけでは難しいと思う。

健康高齢者知事表彰の復活

平成15年まで、県内全域で健康優良高齢者の知事表彰ないしは県連合会長表彰という制度があった。それがこのところの行財政の逼迫から、県の方の補助、助成カットという措置によって出来なくなったと聞いている。わずかな事業予算で足りると思うので、復活していただき、元気な高齢者に生きがいを与えてほしい。

(知事)

県は、職員を1割カットし、今度は給与カットをしなければならない。切り詰めていこうという中でリストアップされたと思う。副賞がどの程度の予算だったか分からないが、精査して、皆様方のお気持ちに応える方法を探してみたい。

[対応]

健康優良高齢者知事賞は、県老人クラブ連合会に委託し実施していた「ことぶき文化フェスティバル」の中で、75歳以上の健康優良高齢者(5名程度)に、記念品(タオルセット)を授与していたが、高齢化が進み元気な高齢者が増加したことで、個人を対象に知事賞を授与する意味合いが薄れたため、平成15年度に「ことぶき文化フェスティバル」の見直しと併せ廃止した。

元気な高齢者の増加は喜ばしいことであり、高齢者大学校や健康づくり大学校など生きがいづくりに寄与する事業を十分活用していただき、健康で生きがいのある人生を送っていただきたい。

将来にわたる上島町の存続

特例で上島町を認めていただいたが、これからも上島町として存続したい。

(知事)

将来どうなるのかは予測できない。今までは、全国同一レベルの行政サービスが維持できるように、地方交付税や国庫補助金で格差が生じないように措置が講じられていたが、今のところ、人口1万人を下回るところへの特例サービスを認めない方向である。町長・議員の報酬を減らすとか、職員を削減するとかで、上島町が生き残ることは不可能ではないが、今治市か尾道市に合併した方が行政サービスは向上する。

合併した上島町のメリットは10年間継続されるので、この10年間で上島町のまちづくりのチャンスである。可能な限り生名橋と岩城橋が早く開通することが大切で、その後の将来は住民が決められることである。

旧佐島小学校校舎の高齢者介護施設への転用

上島架橋が形になってきており楽しみにしている。早く完成するようお願いする。

廃校になった佐島小学校を活用して、高齢者を自分たちで介護できるような施設にしてほしい。

(知事)

空き施設の転用を全県的に奨励して進めている。使用可能な範囲で、若干の手直しをして使うのは非常にいいことである。県は数年前から老人が集えるような場所づくりを進めており、「地域やすらぎの場整備支援事業」では200万円を限度に改修すれば、10分の9を県、市町が補助するので、高齢者のやすらぎの場として整備する方法もある。地域が知恵を出し、夢を持ち合って、上島町長に地域でお願いしていただきたい。

ボランティア作業のための補助金での備品購入

ボランティアコーディネート推進事業の助成を受け、ボランティアネットワーク「ひまわり」を昨年立ち上げ、地域の介護保険では手の届かない部分に手を差し伸べる事業を展開しているが、機械や道具がないため、人手がたくさんいる。草刈機とか耕運機が助成で買えるようにしてくれれば非常に助かる。

(知事)

草刈機、耕運機は私有財産になるから、私有財産を補助するというのは制度的にどうなのかと感じる。個人の所有物として、目的以外に使えるという財産的なものには、税金はつき込まないという大原則がある。草刈機、耕運機は農作業で農家に使われる結果にならないという保証があれば不可能でないと思う。即答できませんので、制度の問題としてそういったものを取り込むことが出来るか、検討させていただく。

[対応]

上島町では、財団法人自治総合センターによる一般コミュニティ助成事業の助成金を受けて、清掃用具などの備品などを17年度に整備する予定であるので、利用の必要がある場合には町へ問い合わせいただきたい。

その他にも、日本財団の非営利活動事業に必要な備品・機材等の購入に対する助成金や愛媛県共同募金会の身近な福祉サービス・支援活動事業に必要な備品・機材費等の購入に対する助成金など各種団体が募集している助成金の中には、そういった備品の購入も対象としているものがある。県では、そういった助成金情報を収集し、インターネット上に開設したホームページの「愛媛ボランティアネット」などを通じて広く県民に提供するとともに、県や市町のボランティア相談窓口においても、相談にこられた方に提供しているので、ボランティア活動のための資金調達についてお困りの場合は、県又は市町の相談窓口にご相談いただきたい。

県道の除草作業

ボランティアで立石港から生名港まで県道の除草をしているが、県道は県が業者に委託しているので除草しなくていいと言われた。県は業者と委託契約をしているのか。

(知事)

愛ロード制度に申し出のあった区間は業者委託をしていない。ボランティアの申し出のない区間は業者に委託している。県内の道路全てをボランティアでやってもらえれば、それだけの税金が他のことに回せることになる。生名地域でどこかの団体が名乗りを上げてもらえると嬉しい。

魚島での教育・福祉施設の存続

現在、魚島には小中学校が各1名で保育園以下の子が7名いる。他の地区では統合の声もあるが、一番近い弓削島まで45分かかり、子供が島外に通うと家庭の負担が大きいため存続をよろしく願います。

行政直営の介護保険事業所が1箇所あり、訪問介護、通所介護をしている。人口が限られおり、多種多様の福祉サービスを求めるのは限界があると思うが、離島だからこそ必要であるので継続を願います。

(知事)

子供が1人でいれば、教員がそこに居て、最低限の義務教育を実施することは国の努めであると思っている。教育に関しては国が放棄することは絶対ないと確信している。

老人1人でも介護の要員を常駐させるのか。福祉政策は教育政策とやや差がある。極端な話、数少ないお年よりのために介護スタッフを常駐させるべきなのか、それとも弓削の施設に来てもらうのか、どちらを選択するかの選択肢がある。可能な限り魚島が教育も福祉も恵まれないと言われない形での最大限の努力をするのが、日本国家として、愛媛県としての努めである。

海の駅構想への協力

上島町は、国土交通省中国運輸局が主体になって設置している「瀬戸内海“海の駅”設置推進会議」に加入している。海の駅は船を係留する施設であり、離島の特性を生かして、船舶を島外から係留してもらえば、地元の活性化につながる。海の駅を設置するには、係留施設が必要であり、例えば、弓削港は県管理の港湾施設であり、県の許可が必要であるので協力をお願いします。

(知事)

規制緩和の方向にあり、地域が求めることには可能な限り条件を緩和していこうとしている。

(建設部長)

弓削港は県管理港湾であるので具体的な案があれば検討できる。上島町を通じて相談してほしい。

環境浄化活動への補助

20年ぐらい前は、この島のどこでもあさがりが捕れていた。弓削でも民間のグループが、岩城でも商工会が主体で、EM菌とか、えひめAI-1、AI-2を使って海をきれいにしようとしている。道具代とか費用が結構かかるので補助してもらえないか。

(知事)

制度的にどんな形で何をどうすればいいのか、ちょっと検討がつかない。具体的にどんな道があるのか、検討する。

[対応]

岩城島周辺の海的环境改善事業に対する補助については、合併市町周辺地域振興補助金の活用が考えられる。

この補助金は町が直接事業を行うか町が事業を実施する民間団体に補助を行うことなどの条件がある。